

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391400017		
法人名	社会福祉法人 西根会		
事業所名	グループホームななしぐれ		
所在地	〒028-7404 岩手県八幡平市堀切第14地割10番地7		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391400017&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成18年8月、西根会北部DSに隣接した敷地に設置され、建設時スプリンクラーを設置している。同じ敷地内に現在小規模多機能型居宅介護事業所を工事中である。今年は「グループホームななしぐれ」と命名していただいた近くの西根第一中学校と交流する機会がおおくあった。3.11の東日本大震災では、中学校の生徒会で被害の大きかった田老中に雑巾を送る計画があると情報を聞きました。雑巾縫いは皆さん得意なので110枚縫いあげ中学校を通じて雑巾を寄贈しました。夏は掃除のボランティアに来ていただいたり秋は文化祭に招待され交流を深めました。利用者は毎日歩行練習をし歩行の維持に努めています。春は畑作りをし、夏と秋は収穫した野菜を食べて、冬は雪を見て寒さを感じている。理念である「聴きましょう・話しましょう・笑いましょう」をモットーにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者全員が八幡平市の西根・松尾地区に居住していた。そして家族も同様で、朝夕地域の象徴である岩手山を眺望できる場所に立地しており、利用者にとっては住みなれた場所として、心をいやしてくれるホームである。地区公民館を中心にした地域活動に参加しており、災害協力をはじめ、交流の巾が広がってきている。運営及びサービスについて、全職員の意見を吸い上げると共に、サービスの質の向上にあたり、利用者本位にたつて、生活記録などの様式を一覧して利用者の状況がわかる様に改良工夫をし、取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「聴きましょう・話しましょう・笑いましょう」を理念とし誰にも見えやすい場所に掲示している。研修会や会議の場では職員全員で唱和し、利用者・職員の笑顔が引きだされるように努めている。	職員みんなで考えて立てた理念なので、当然職員間で共有しており、更に、事務室や共同の居場所に掲示するなど、常に身にしみる様にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事について情報収集しお祭り等には外出をし利用者は楽しんでいる。又、近くの中学校の生徒がボランティアで掃除に来てくれたり学校行事に招待され出席した。3.11の大震災で被害の大きかった田老中学校に利用者が雑巾を縫い送ることができた。夏まつりには地域住民にも参加していただき交流をすることができた。	地域活動の主体は、堀切と山崎の自治公民館であり、その活動の中に組み込んでいただいている。地域交流の幅も、中学生のボランティア、住民によるホームの畑の耕耘、肥料の持ち込みなど多岐になってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関の見えやすい場所に「認知症サポーター」の掲示をし地域の人々に対していつでも相談・問い合わせに対応できるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を実施しており出席者からは毎回意見・助言をいただいている。その都度テーマを設定しバスで施設見学に行ったり避難訓練に参加していただいている。又、市の職員からは介護保険に関する情報をいただくことがある。	2ヶ月ごとに、テーマを設定した会議を持っている。自治公民館長さんも委員として参加し、地域交流にかかわる提言をいただき、災害協力に関して具現化されている。グループホームのあり方を理解するため、他事業所の見学も実施した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の職員が運営推進会議や入所判定会議の構成メンバーになっているので情報提供をさせていただいたりななしぐれの状況を報告する機会が多い。	市の担当課長が運営推進会議委員となっており、会議の折に種々のご指導を得ている。また、諸連絡の書類などは可能な限り担当者へ手渡しする様にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、研修会に参加するなど理解を深めている。日中は、玄関の施錠をせず利用者が外に出ようとする場合は職員が同行している。	職員の意識確立のため、グループホーム協会の研修を受け、内部研修を行っている。グループホームななしぐれとしては、身体拘束は絶対しないこと、スピーチブロックをしないよう注意している。夜間施錠は19時～6時30ごろまで。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し学ぶ機会がある。事業所内では普段から利用者に対して言葉使いに気をつけるように配慮し職員同士がお互いに注意できるようにしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会で学ぶ機会がある。現在制度を利用してる人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約は、サービス開始前に説明している。改定については、家族に対してななしぐれ通信や電話で説明し更に来所時説明し、了承いただきその上で署名・捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所した時は利用者の生活の様子をお知らせしている。意見・要望があった場合はすぐに対応できるように職員間で申し送っている。又、利用者・家族に困ったことがあった場合の為、相談窓口を設けている。	家族が毎月の利用料支払いのため、ホームを訪れている。この際に、利用者の様子やホーム内を見ていただくと同時に意見、要望などを聞く機会にしている。今のところ、家族から運営にかかわる意見、要望は無い。また、利用者の日常の写真、担当の手紙を渡すことにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議の中で意見・提案など発言の機会を設けて働く意欲の向上につなげている。又、普段の会話の中でも利用者のこと、業務のことなど話ができれば耳を傾けている。	職員の意見を取り上げる体制はできており、その提言から、利用者の食事用テーブルの増加購入や、休憩時間のとり方について、昼食時の時差休憩を取れる様に、運用上の工夫をするなど具現化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は各自で向上心を常に持ち資格の取得などにチャレンジしている。勤務時間に関しては業務が終わったら退勤するように声かけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の技量に応じて可能な限り研修会に参加するよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員研修会・スポーツ交流会に参加したり交換研修を行いその施設の良い点・参考になる点を学びとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に本人と面接したり担当のケアマネから情報収集をしている。又、本人との会話の中で不安・要望などを傾聴し安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談からサービスの導入まで定期的に本人の状況を確認し家族の不安・要望など家族の立場になって傾聴している。又、家族にはサービス開始前に施設内を見学していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望等をもとにその時点で何が必要か見極めできる限りのサービスをするように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で何かをする時は本人に尋ねその意向を尊重している。人生の先輩である利用者から知恵を拝借する機会が多い。普段の生活の中でできることは自分でやっていたき、できない部分は職員が支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から自宅での生活状況を聞いたり職員からはホームでの生活状況を報告している。利用者にとって良いと思われる支援を両者で考えて行くようにし本人と家族の関係をいつまでも築いていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との関係を途切れないように自宅に行ったり馴染みの場所に行ったりするように努めている。又、家族にも協力していただいている。いろいろな場面を写真に残し利用者の回想法につなげている。	ドライブの際、自宅近くや馴染みの場所を訪ねたり、馴染みの床屋さんへ家族同伴で出かけたり、それぞれ馴染みの地区の祭りに行くとか、可能な限りの支援をしている。日常では職員と共に近くのスーパーへ買い物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者全員が共用スペースで過ごす事が多く利用者同士で会話したり家事・作業など協力してる姿を見ることがある。時には、口喧嘩などする時があり職員が間に入りお互いの話を聞くことがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院が長期化になっている場合は、退院後のことなど家族の相談に応じている。契約が終了しても病院・施設などに出向いて利用者と面会したり生活の様子を聞いたりして関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から本人の思いを把握するよう心がけているが、意思疎通が困難な場合は職員間で話し合いをしたりセンター方式を活用しながら利用者本位になるよう努めている。	利用者の日常の言動を注意深く見守りながら、思いや意向の把握に努めている。そこから得られたものを「私の暮らし方シート」や、利用者の状況を一覧できる「生活記録」に記録し、職員が共有する中でケアしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート・センター方式を活用している。又、今までの生活のスタイル・習慣を維持してもらえるように家族・ケアマネから情報を聞き本人らしく暮らしていけるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態・生活の様子は毎日記録されている。生活の様子は日誌で確認したり申し送りや連絡ノートで周知され全職員が把握している。又、本人のできることを暮らしの中で気付いたときは記録に残し生活の中で発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が利用者・家族の希望を取り入れ意向に沿う形で原案を作成し3カ月に1回、評価・見直しをし職員間で検討している。最終的に計画作成担当者がまとめ介護計画を作成している。	利用開始時に利用者、家族からの希望を取り入れた計画を作成すると共に、計画に沿ってケアをしながら、以後、家族の来所時に希望、意見を求めつつ、3ヶ月ごとに全職員で検討して見直し、利用者にとってより良いケアになる介護計画になる様努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子は毎日記録され全職員で情報の共有をしている。ケアプランの実施状況も生活記録と一緒に取り入れプランの見なおしに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時、家族や病院に情報提供したり家族が受診できない時は職員が対応している。又、その日の状況をみながらドライブ・畑作業・買い物など対応している。帰宅願望の強い人にはその都度対応し、施設の生活に早く慣れていただくように支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームななしぐれ

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏まつりでは地域の人と輪になり踊り利用者の楽しんでる姿をみる事ができた。近くの中学校の生徒がボランティアで掃除に来てくれて交流の場ももてた。春には近所の方から畑を耕していただいた。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者はそれぞれかかりつけ医がある。基本的に通院は家族にお願いしている。受診時、最近の体調・血圧・睡眠状況など医療機関と家族に情報提供している。緊急時・家族が付き添えない時は職員が対応している。	利用者の半数以上は協力医療機関の西根病院がかかりつけ医となっている。家族が同伴することにしており、利用者の身体的状況を書面にして家族が持参できる様、グループホームとして配慮している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内には看護師の配置がない。利用者の状態に変化があった場合、近くにある他事業所の看護師に相談したり利用者の状態を見てもらうことがある。緊急時は協力病院に連絡し医師・看護師の指示受けをしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は不安・ストレスを軽減するため面会の機会をおおくしている。家族・病院から情報をいただきながら利用者の回復状況を把握している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者・家族と早い時期から話をすることがある。段階を踏みながらかかりつけ医や家族と話し合いを繰り返して行きたい。利用者の家族全員が重度化したら特養ホームへの入所を希望しているが待機者が多いのが現状であり、できる限りの支援はしていきたい。	1ヶ月以上入院した場合は、退所することと規定しており、かかりつけ医と連携しながら、家族とも相談の上で、可能な限りホームでお世話したいと取り組んでいる。指針等は無い。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時のマニュアル・本を見て確認している。利用者の連絡先・情報の一覧がありすぐに対応できるようにしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「災害援助協会」の協力体制があり避難訓練にも地域の人に参加していただいている。3.11の震災時ではその日の勤務している職員が慌てず利用者を避難誘導することができた。又、近隣の方が駆けつけてくれた。今後の災害に備え避難方法・必要な物品など対策を確認した。	ホームとしては、年間に都合4回ほどの防災訓練を行っている。その中には、地域住民で編成される「災害協会」との合同訓練も含まれる。防災マニュアルも整っており、更に3.11後は、職員の意見を取り入れ防災関係用具や備蓄の充実にも努めている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	やさしい声かけを意識し利用者が傷つかないように配慮している。訪室時はノックしプライバシーに気をつけるようにしている。トイレ誘導の声かけもさりげなくしている。耳の聞こえにくい利用者には声のトーンに配慮しながら対応している。	利用者の人権尊重を大切に考えて日常の対応をしている。そのために基本的に利用者は人生経験豊かな先輩として言葉使いをはじめ、声かけなど、職員は心しながらケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で本人の希望や思いを聞いている。介護者側の考えを押し付けないように自己決定できるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を確認しながら本人の希望を聞き自分のペースで楽しく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服は自分の好みで着ていただいている。選択できない場合は清潔を考えその人らしく支援している。長寿を祝う会では全員化粧をし鏡をみてにっこり笑う姿があった。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査をしたり普段の会話の中から何が食べたいか聞きだし献立に取り入れてる。夏～秋にかけ畑でとれた野菜を献立に入れ旬を味わっている。料理の下ごしらえ・片付けは利用者と共にし作る楽しみ・食べる楽しみが感じられるように支援している。又、一人ひとりの誕生会を開催し好きなメニューを提供し、お祝っている。	食事内容は、利用者の好みを中心に考えている。時々弁当を買い入れ、各自好みのものを食べるなど工夫をこらした食事の機会も作っている。食器は、ご飯茶碗をはじめ、ほとんど個人のものを使っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎食確認し少ない人には声かけをしている。歯の状態により形態を変えたり体調や体重の増減を考慮しながら提供している。又、その人に合った食器を工夫し楽しく食事ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援をし清潔保持に努めている。利用者の状態に合わせて見守り・介助をしている。口腔ケアの習慣がなかった人もいたが説明することで拒否なくできるようになった人もいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームななしぐれ

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握しその人にあった時間にトイレ誘導をしている。又、利用者の様子・しぐさを察知しながらさりげなくトイレ誘導している。入所時はリハビリパンツだった人が布のパンツに改善された利用者もいる。	生活記録などで、各利用者の排泄パターンをつかみ、食時前後、おやつの前などにさりげなく誘導に努めている。現在、夜間のみ大きめのパットを使用、日中の介護用品を用いない自立排泄は3人である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日している。便秘予防のために牛乳・乳製品・食物繊維を多く含む食品を献立に取り入れたり運動も取り入れ自然排便を促す工夫をしている。又、水分も残さず摂るように声かけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調・希望を聞きゆっくり入浴ができるように配慮している。体調が悪い人には次の日に声をかけたりし工夫している。入浴時はゆったりと楽しい気分で過ごせるように支援している。又、お互いの希望で二人で入浴したときもあった。	風呂は毎日の午後に、いつでも入浴できる様にしているが、1日に2~3人が入浴、1人週に2~3回、1回に約40分ほどの時間をかけている。気持ちの合う利用者は2人で利用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休息をとっていただいている。食後・入浴後など好きなところで自由にくつろいでもらっている。日中の活動を多くし夜はぐっすり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は処方都度の、薬局からの説明書を読み確認している。個別に管理され所定の場所に管理している。服薬は本人に直接手渡し飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式やアセスメントを使い一人ひとりにあった役割を發揮していただいている。そのことにより気分転換にもつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春は花見、秋は紅葉狩りに出かけ季節を感じていただいている。ドライブは予定を立てたり突発的に行く時もあり利用者に喜んでいただいている。天気の良い日はテラスで外気浴をしたりごみ捨て・散歩にでかけている。又、近くのスーパーまで買い物に行きカートをいきいきと押している姿がある。家族の協力で外出する機会もある。	天気の良い日は1時間くらいの散歩に出かけたり、畑作業シーズンには、畑に出て軽い作業をして外気にふれる機会を持っている。また、週2回の食材の買い出しに職員に同行し買い物を楽しむこともある。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームななしぐれ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない人もいるので金庫に保管し使うときに持ち出すようにしている。希望があれば一緒に買い物に行く機会がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から荷物が届いたときは電話を使い連絡を入れる利用者もいる。又、電話の希望があれば電話を取りついでにしたりして。年末には家族に年賀状を出す利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓から岩手山が見え壁面には利用者・職員で作った作品を季節ごとに展示している。行事の写真も見えるところに飾っている。共用空間は利用者・職員で掃除をしている。台所が食堂の隣にあり五感を感じながら生活をしている。又、各所に温室度計があり環境整備を心がけている。	ホーム内の清掃が行きとどいており、清潔である。清掃は職員と利用者が共に行う。また、近くの中学生もボランティアでやってくれる。行事や利用者の日常生活を撮影した四ツ切り版の写真を掲示し、みんなにホームと利用者の様子を知っていただく工夫を共用空間を活用して行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ・食堂の椅子・廊下の小上がりなど思い思いに自由に使われている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族はそれぞれ使い慣れたもの、思い出のあるものを持って来てその人らしく安全面も考え居室に配置している。位牌・遺影や家族写真・自分の作品を飾っている人もいて居心地よく過ごしていただいている。	居室の目印は、苗字、名前、写真と色々である。位牌を持ってきている方、テレビ、家族写真、ペットを低くして使用している方もある。利用者一人ひとりが、使い慣れたものを持ち込んで、思い思いの居室づくりをしている様子を実見できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内にはすりがあり安全に移動できるような配慮がしてある。台所には昇降式の調理台が設置してあり利用者の体に合わせ作業しやすくなっている。又、自室の表札・トイレの場所はわかりやすく表示している。		